



「言葉の力」を中核とした学校づくり⑬

「感性・情緒」を高める

◆ 感性・情緒は、主に他者との人間関係の中で育まれるものであり、美しい言葉や心のこもった言葉の交流は、人間関係を豊かにします。また、物語や小説、詩歌などの文学作品を読む、体験から感じ取ったことを自らの言葉で表現することも、子供の感性や情緒を育てます。

◆ 現代の子供たちは、ゲームに代表される一人遊びの増加、地域社会におけるふれあいの減少などにより、対面での言葉の交流が不足しがちです。また、インター



ネットやメール等の情報化の影響もあり、読書離れが広がっています。そうした中、「うざい」「きもい」「やばい」など、物事を直感的に捉え、感情を直接的に表現する言葉が多用されています。

◆ **感性・情緒は、論理と併せて育む**ことが重要です。物事を直感的に捉えるだけでなく、分析的に捉えることは感性・情緒を豊かにすることにつながるからです。例えば、音楽や絵画を分析したり説明したりする活動は、感性・情緒を育む上で有効です。また、物語や小説などの文学作品を読むときに、その内容や表現について分析し、話し合うことなどの活動も感性・情緒を豊かにします。

とりわけ**語彙の豊かさは感性・情緒の豊かさにつながる**ことから、**学校として読書活動の充実を図る**ことが大切です。

社会の良否

実業家 渋沢栄一

社会の良否は、住む人の人格に因（よ）る。

出典：「渋沢栄一 一日一言 人間力を高める言葉」（致知出版社）

※ 教育の重要性を、改めて認識させてくれる言葉です。